

## 沼津市の男女共同参画の状況

本市では、第5次沼津市男女共同参画基本計画策定の基礎資料とするため、本年6月に「沼津市男女共同参画に関するアンケート」（以下「市民アンケート」という。）を実施しました。

市内に住む方を無作為抽出し、発送数は2100通、回収数は668通、回答率は31.8%です。

この市民アンケートでは、沼津市男女共同参画推進条例において、特に男女共同参画の推進を要する「家庭」、「職場」、「学校」、「地域」の4分野と、「性的少数者」に関して、市民の意識及び現状について調査を行いました。

※年次別の比較データについては、平成21年度や平成26年度に沼津市男女共同参画基本計画策定時に実施した市民アンケートを基にしています。

## (1) 家庭における状況

近年、人口減少や少子高齢化の進行など、社会状況が急速に変動する中、沼津市においても家庭を取り巻く環境も大きく変化しています。

図表1において、市民アンケートの回答者の世帯構成を前回調査と比較すると、増加傾向にあった単身世帯が10.9%と-4.0ポイントで減少に転じた一方で、夫婦だけの世帯は31.1%と10.6ポイント増加し、増加傾向にあることがわかります。

また、3世代以上世帯の減少やその他の世帯の増加など、家族構成の推移にも変化が見られ、長寿命化やライフスタイルの多様化に伴い、世帯の家族構成が変化していることがうかがえます。

図表2において、家庭における家事分担（食事の支度・片づけ、洗濯、掃除）については、男女同じ程度という世帯は、平成21年3.1%→、平成26年9.4%→令和元年13.0%と徐々に増加する変化が見られるものの、いずれの年も、主に女性が50%以上であり、その割合は減少傾向にあります。多くの世帯で、未だ妻、母、娘等の女性が担当していることがうかがえます。

図表3において、女性が職業を持つことについては、今回、令和元年の調査において、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は36.7%で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が41.3%となり、この2つの項目の割合が初めて逆転しています。

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える世帯が増加し、出産や育児をきっかけに職業から離れることなく、女性の就業継続の考えが定着しつつあることがわかります。

## (2) 地域における状況

地域において誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるには、そこに住むあらゆる世代の人々が地域活動に参画し地域づくりを行うことが重要です。

そして、地域活動をこれまで以上に活性化していくためには、女性をはじめとした多様な立場の人々の意見を取り入れながら運営していくことが望まれます。

図表4において、沼津市における自治会活動、PTA活動は、実際には女性の参加が多く見られるものの、自治会長・PTA会長の女性登用率は、自治会長が2%、公立小学校PTA会長が8.3%、公立中学校PTA会長が6.3%と低く、組織を代表する立場や意思決定の場には男性が務める割合が高いという実態があり、女性の意見が十分に反映できているとはいえない状況がみられます。

市民アンケートの結果、図表5において、地域の活動について市民が思うこととして、さまざまな選択枝の中から複数の回答がありましたが、「男女ともに同じくらい参加するのがよい」、「自治会長等に女性が増えれば多様な意見も増え相談もしやすい」、「自主防災の訓練や決め事は女性も交えて行うと良い」といった項目が男女問わず多数選ばれており、地域における男女共同参画や女性の積極的な参画の必要性があると認識されている方が多くいることがわかります。

一方で、図表6の地域で意思決定の場に女性が少ない理由として、「女性より男性が参加するべきと考える人が多い」、「家事や育児が忙しいから」、「女性は意思決定をしたくないと考える人が多いから」といった項目を女性自らが多く選んでおり、現状としては、地域の中で男性優先、家事・育児などの要因で女性が消極的になってしまいがちな様子が伺えます。

そこで、図表7「女性の意思決定を推進するにはどうしたらいいか」という問いですが、「家事・育児の負担を配偶者等の家族が分担すること」が男女差の大きい項目で女性が比較的多く選んでいます。また、「女性自身の抵抗感をなくすこと」、「女性が意思決定の場に出ることの評価を高めること」、「女性が意思決定の場に出ることの重要性の啓発」は男女問わず選ぶ方が多く、家庭での家族の理解促進や地域での女性活躍の啓発・実践・評価を積み重ねていくことが必要であると考えられます。

### (3) 就労の場における状況

仕事と生活を両立しやすい職場環境は、働く人にとって自分らしいライフスタイルを実現しやすくなる一方、事業者にとっては有能な人材の確保と定着、雇用者の就業意欲の向上などが期待できます。

図表 8、全国事業所における育児休業取得率を見ますと、近年の女性の育児休業取得率は 80% 以上取得していますが、男性の育児休業所得率の数値は年々増加しているものの、1 桁台の半ばで依然低い状況にあり、制度があるにも関わらず有効に機能しているとは言い難い状況です。

市民アンケートの結果、図表 9 の育児休業の取得について、ほとんどの年代で「積極的に取ったほうがよい」と考えており、「どちらかといえば取ったほうがよい」を含めると 8 割以上が育児休業の取得に肯定的といえます。

図表 10 の介護休業の取得についても、育児休業と同様にほとんどの年代で介護休業の取得に肯定的といえます。

図表 9 と図表 10 を男女別にみますと、図表 9 育児休業について「積極的に取ったほうがよい」の項目は女性が 49.9%、男性が 39.7% で 10 ポイントほど開きがあります。

図表 10 の介護休業においても、「積極的に取ったほうがよい」の項目は女性が 53.5%、男性が 44.1% で 9.4 ポイントほど男女に開きがあります。

男性の育児・介護休業取得が少ない理由としては、図表 11 の男性の回答は「男性に育児・介護の能力・経験が乏しいから」が 12.6%、「仕事の評価や配属に影響する」が 15.8%、「職場の理解が得られない」が 17.4%、の項目が女性の回答より割合が多くなっています。

また、図表 12 の男性の家事・育児・介護の時間を増やすのに必要だと思うことについて、「休暇が取りやすくなること」「上司の理解が進むこと」「職場の人員配置に余裕ができること」「昇進・昇給への悪影響を気にせず済むこと」のほか、「男性が家事・育児・介護への優先準備の意識を変えること」も必要と思われる項目として多くなっています。

このことから、男性育児・介護休業取得に向けて、更なる職場の意識改革や制度改善が必要であると考えられます。

#### (4) 教育の場における状況

男女共同参画を推進するうえで、次世代を担う子どもたちの男女共同参画意識を育むための環境づくりは、児童・生徒が固定的役割分担意識等にとらわれず、多様な進路から主体的に選択していくためにも大変重要になっています。

本市では、この環境づくりを進めるため、平成22年度から「職業講話」の取り組みを進めており、市内小中学校において製造業や建設業における女性の活躍や女性消防士や男性看護師等の採用が進んでいることなど、多業種から講師を派遣し、様々な職業への興味と感心を高めつつ、性別に関係なく将来の夢や仕事を思い描く働きかけを行い、男女共同参画意識の醸成を行っています。

市民アンケートの結果、男女の役割を固定的に考えることについて、図表13において、全世代で「反対」及び「どちらかといえば反対」に占める割合が、前回及び前々回調査より増加しています。また、図表14において、20代においても8割以上が「反対」及び「どちらかといえば反対」としており、全世代と比べて、20代を中心とした世代は性別役割分担の意識は少ない傾向にあると考えられます。

一方で、男女共同参画社会という言葉の理解度について、図表15において、全世代で「言葉も意味も知っている」との回答が、前回及び前々回調査より増加していますが、図表16において、20代を中心に「言葉は知っているが意味は知らない」との回答が前回調査より増加しており、一部の若い世代で言葉の意味の理解まで至っていないことが確認されました。

このことから、学校教育の場において、児童・生徒に対する男女共同参画についての学習機会の確保のほか、引き続き教職員及び保護者に対しての教育や性別にとられない進路指導・就職指導を行う必要があると考えられます。

併せて、児童・生徒は保護者や家庭で得られる社会の情報やしくみが大きく影響を受けることを鑑み、職場環境や地域環境の男女共同参画の意識の向上を家庭環境や教育環境への波及させていく好循環な取り組みが必要であると考えられます。

## (5) 性的少数者（LGBT等）における状況

近年、性的少数者に対する配慮に関心が高まる中、行政分野においても、手続書類の性別記載について配慮するなど、当事者が直面する困難に対する対応に変化が見られます。

本市における性的少数者等は、プライバシーの観点から実数の把握は困難であるものの、女性相談におけるLGBT関連の相談件数は増加傾向にあり、民間調査機関が行った全国調査結果からも、当事者は潜在的に一定数いることがわかっています。<sup>注</sup>

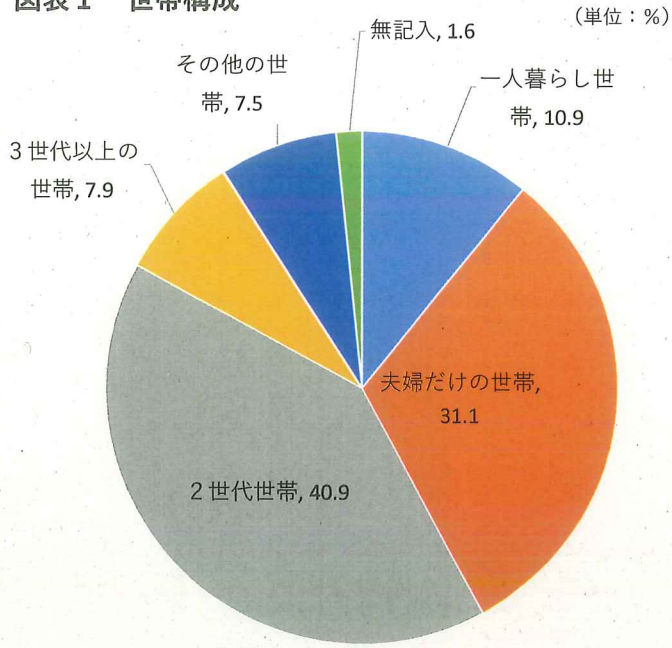
市民アンケートの結果、図表17においてLGBTという言葉を知っている方は全体で5割以上を占めているものの、図表18において、LGBTの方に対して配慮は必要と思うがどういう配慮があるかわからないと答えた方が3割を超えています。

また、図表19において、LGBTに関するハラスメントを見聞きしたことがある方は1割程度で少ない状況で、図表21においては、LGBTの方は自分の身近にはいないものの、周りから差別や偏見があり、他人には言えず悩みをかかえているイメージがある方が多いことがわかりました。

これらの結果から、教育や職場、地域など社会生活の様々な場面において、性の多様性の在り方の尊重に理解を深め、市民一人ひとりが配慮ある行動がとれるよう意識を広げていく必要があります。

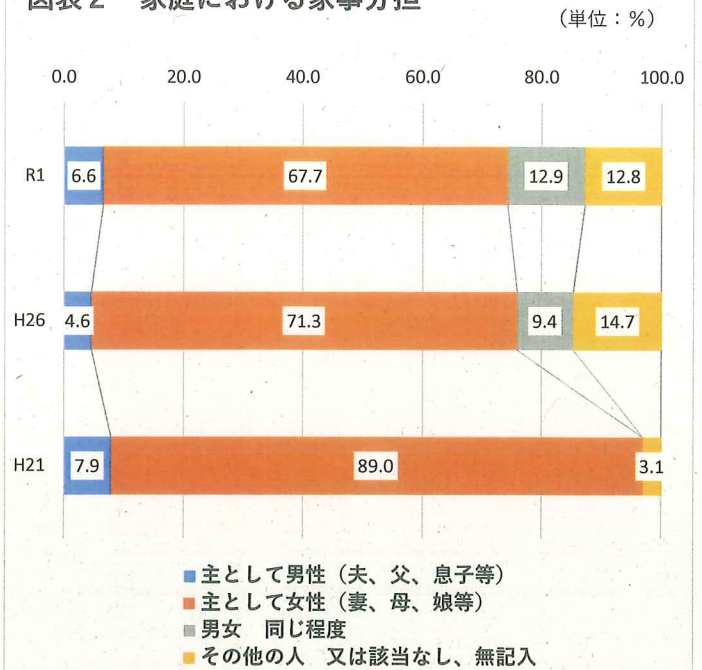
注) 民間企業が実施した調査(電通ダイバーシティ・ラボの平成30年(2018年)に6万人を対象にした調査)によると、LGBT層に該当する人は8.9%という結果が公表されている。この調査のLGBT層は自分の性自認や性的指向を決められない・決まっていない人の「Q」(クエスチョニング)やその他も含まれる。

図表1 世帯構成



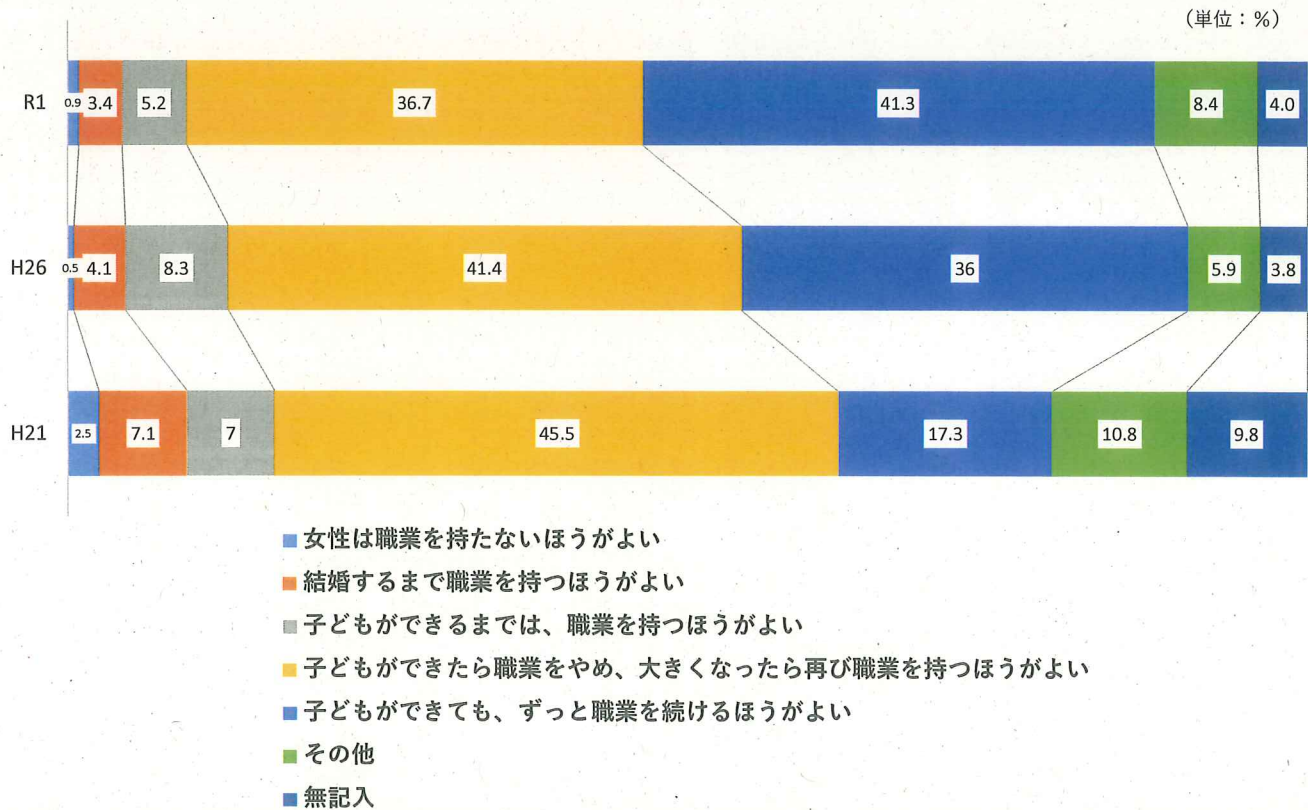
資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

図表2 家庭における家事分担



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H21,H26,R1)

図表3 一般的に女性が職業を持つことについてどう思うか



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(H21,H26,R1)

図表4 自治会長・PTA会長登用率

平成30年4月1日現在

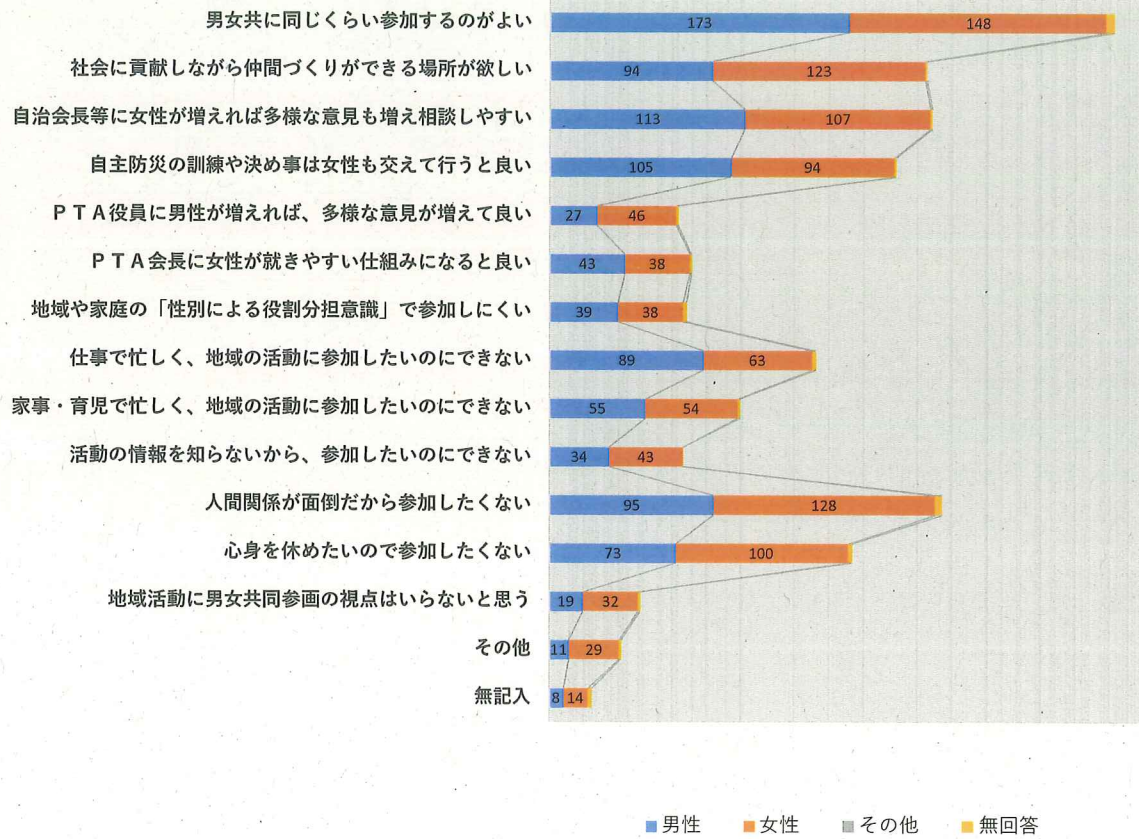
区分	総数(人)		うち女性数(人)		女性比率(%)	
	静岡県	沼津市	静岡県	沼津市	静岡県	沼津市
自治会長	4,770 (4,690)	294 (295)	81 (76)	6 (5)	1.7 (1.6)	2.0 (1.7)
公立小学校 PTA会長	492 (493)	24 (23)	56 (46)	2 (2)	11.4 (9.3)	8.3 (8.7)
公立中学校 PTA会長	260 (263)	16 (16)	29 (21)	1 (3)	11.2 (8.0)	6.3 (18.8)

資料 地域自治課

( ) 内は前年数値

図表5 地域の活動について沼津市民が思うこと

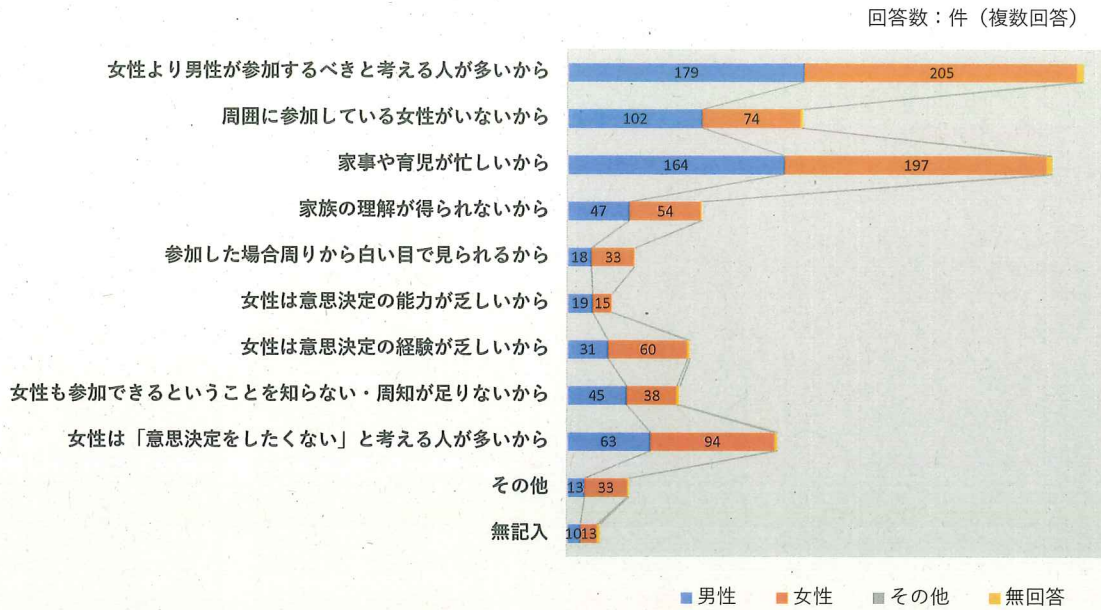
回答数：件（複数回答）



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

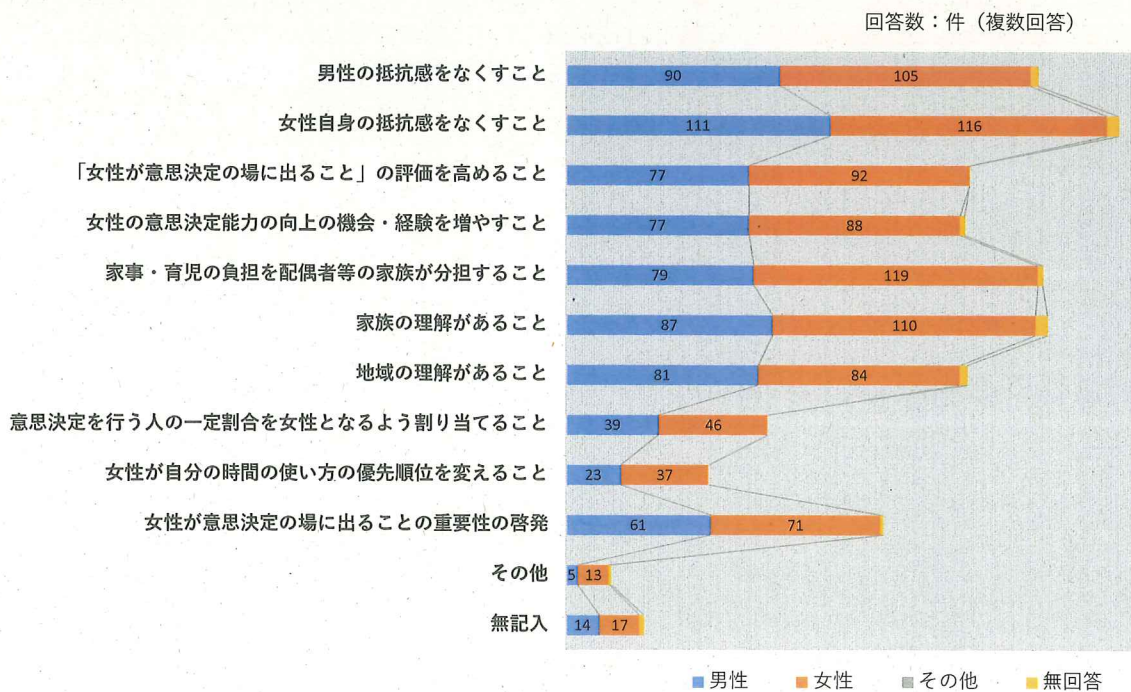


図表6 地域（PTAや自治会等）で意思決定の場に女性が少ない理由



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

図表7 地域（PTAや自治会等）で女性の意思決定を推進するには



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

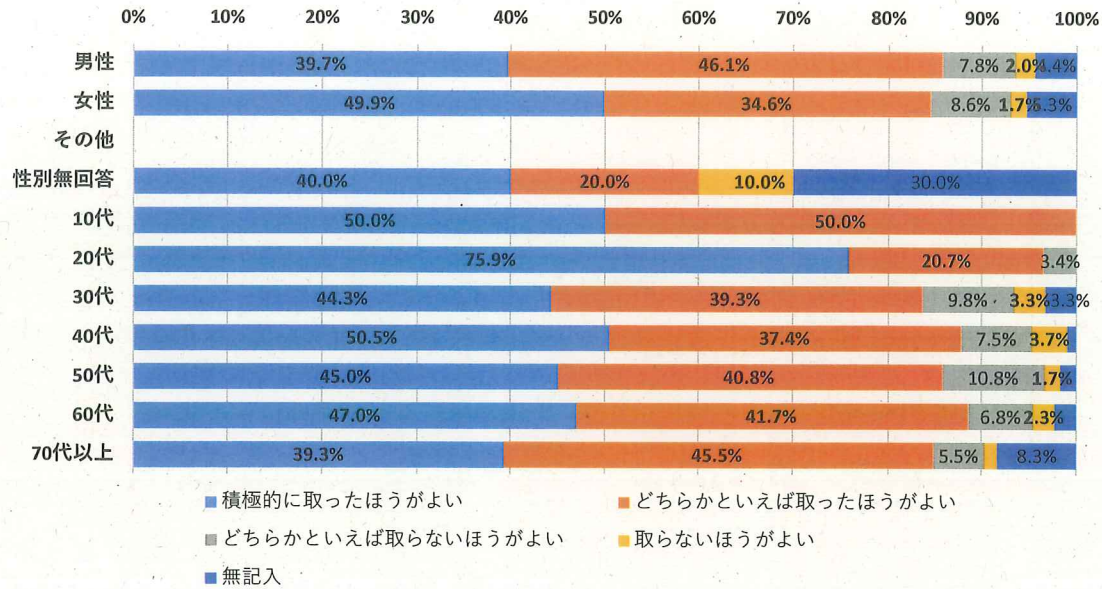
図表8 育児休業取得率（全国事業所）

単位：％

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
女性	86.60	81.50	81.80	83.20
男性	2.30	2.65	3.16	5.14

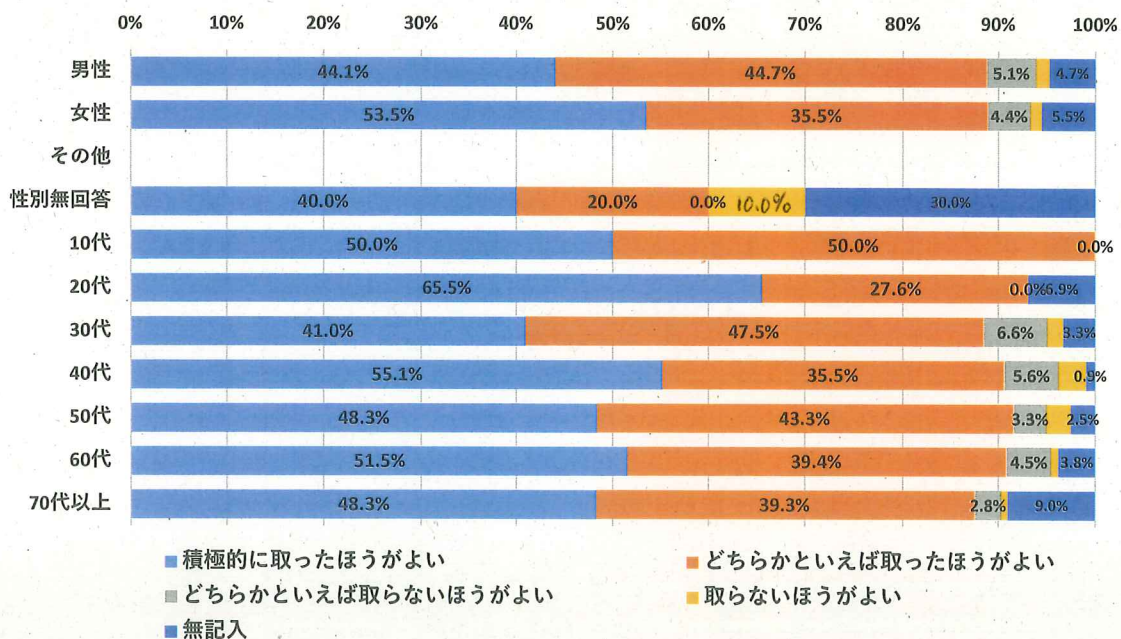
資料 厚生労働省「雇用均等基本調査」

図表9 育児休業について



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

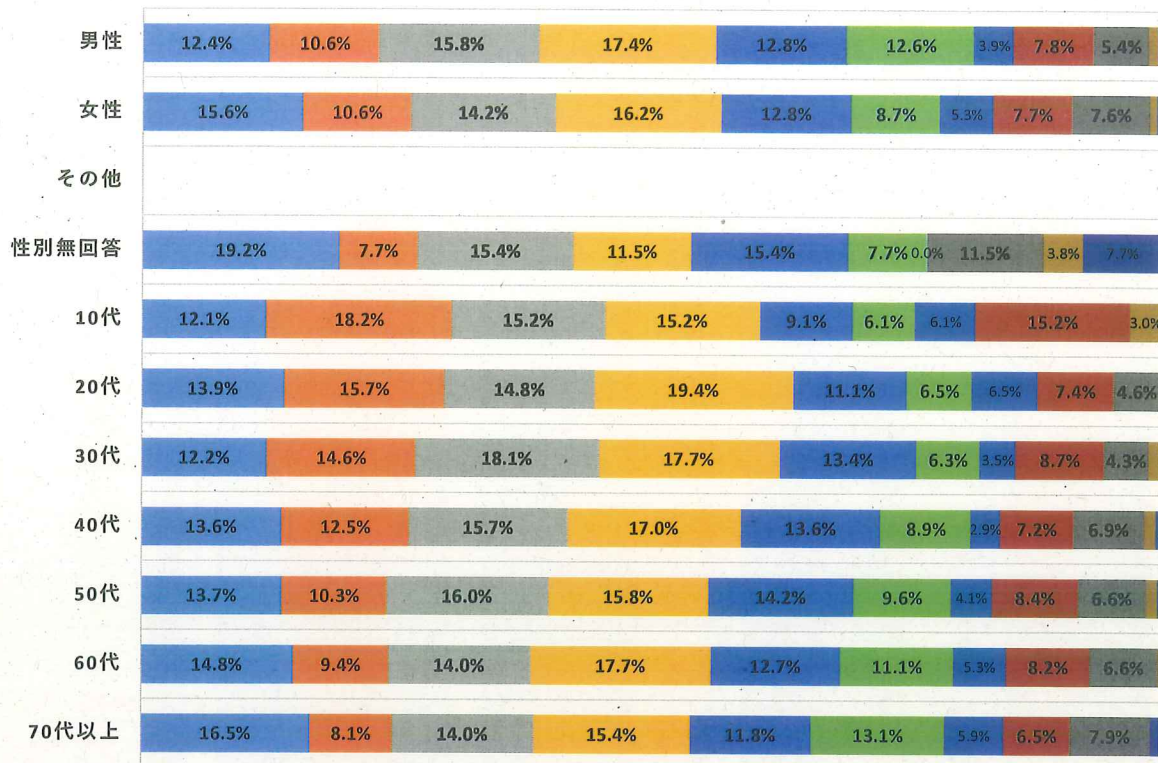
図表10 介護休業について



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

図表 1 1 男性の育児休業・介護休業取得が少ない理由

(複数回答)

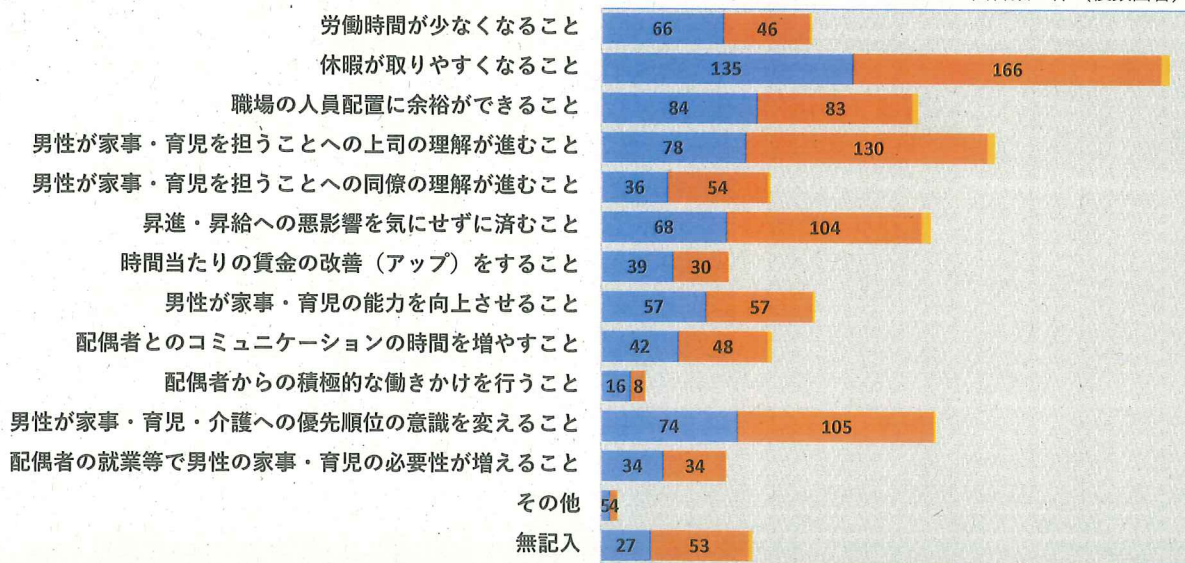


- 男性より女性がとるべきであると考えてる人が多いから
- 周囲に取得した男性がないから
- 仕事の評価や配属に影響するから
- 職場の理解が得られにくいから
- 取得した場合、経済的に苦しくなるから
- 男性に育児・介護の能力・経験が乏しいから
- 地域において男性が育児・介護に参加しにくい雰囲気があるから
- 詳しい制度を知らない・周知が足りないから

資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

図表 1 2 男性の家事・育児・介護の時間を増やすのに必要だと思うこと

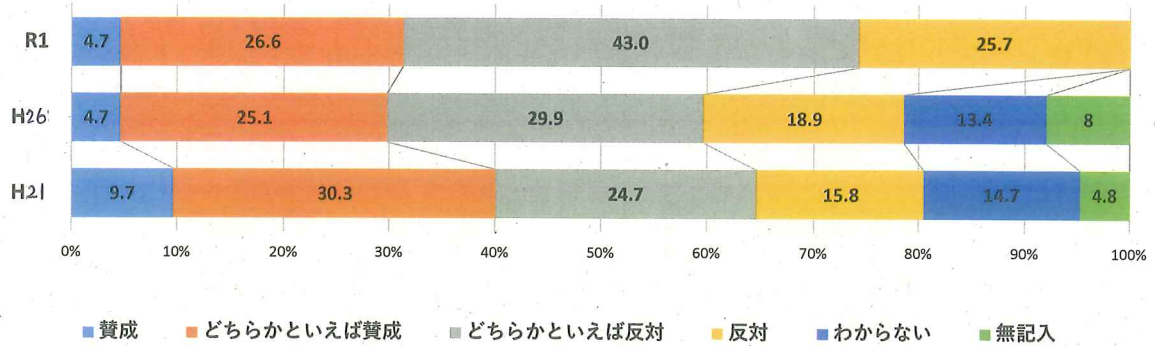
回答数：件（複数回答）



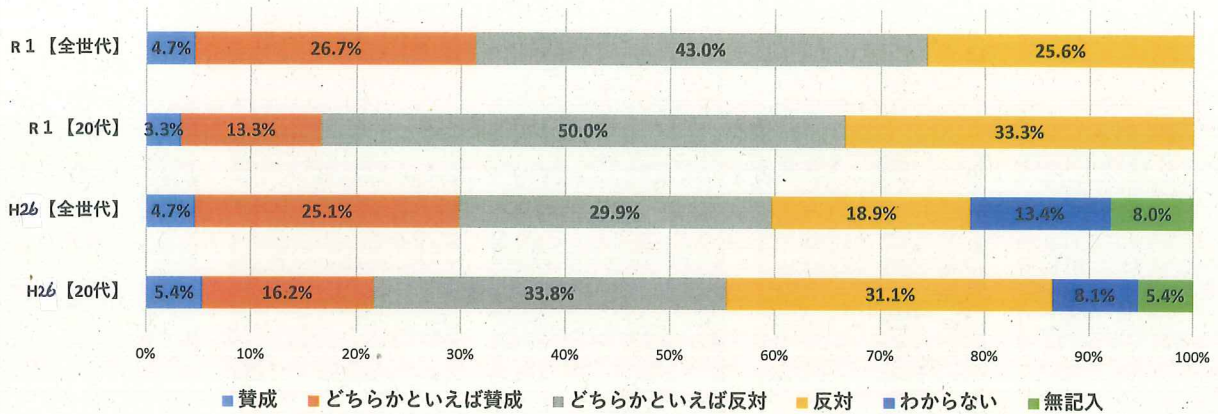
資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

■ 男性 ■ 女性 ■ その他 ■ 無回答

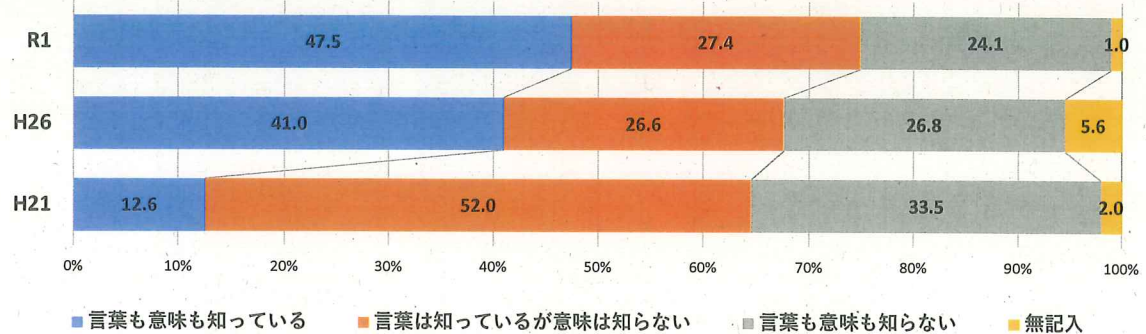
図表 1 3 男女の役割を固定的に考えることについて



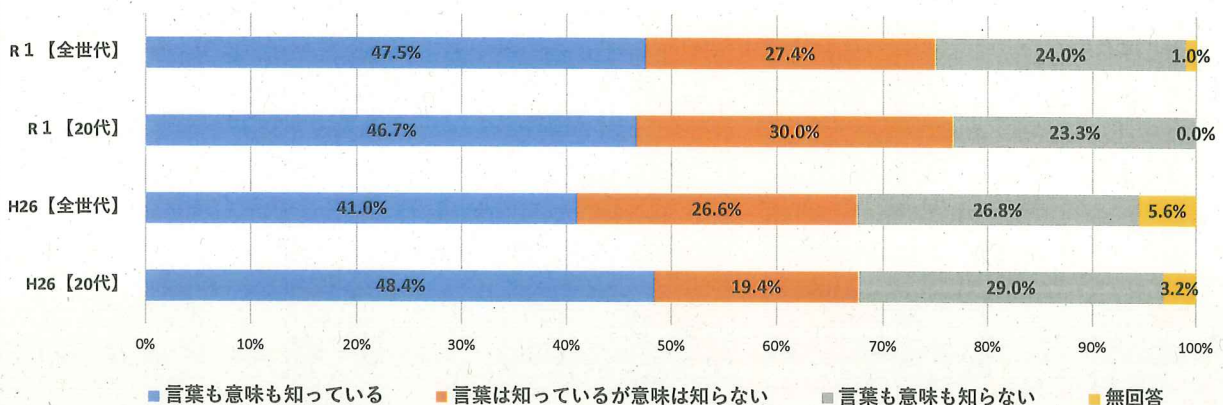
図表 1 4 男女の役割を固定的に考えることについて (全体と 20代)



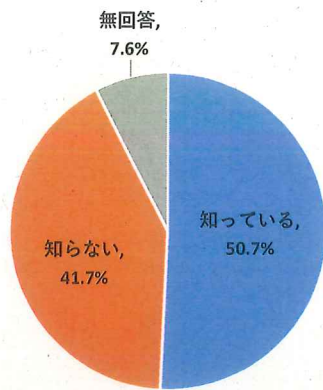
図表 1 5 「男女共同参画社会」の用語の理解 (全体)



図表 1 6 「男女共同参画社会」の用語の理解 (全体と 20代)



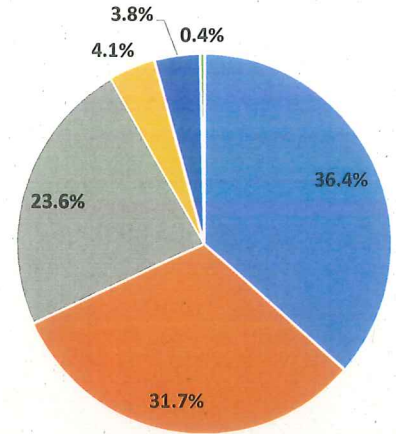
図表 17  
LGBTの言葉の認知度



資料 沼津市「市民意識調査」(H30)

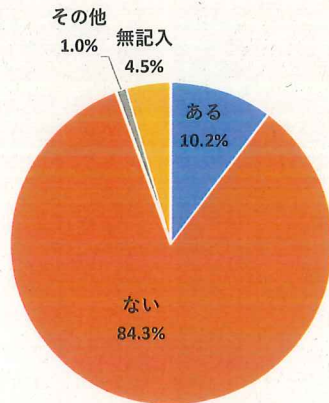
図表 18 LGBTの方に対する考え

- 配慮は必要と思うがどういう配慮があるかわからない
- 配慮等について特に考えたことはない
- 周りにLGBTの方がいるかわからないが行動や発言には気を付けている
- 周りにLGBTの方がいるため行動や発言には気を付けている
- その他
- 無回答



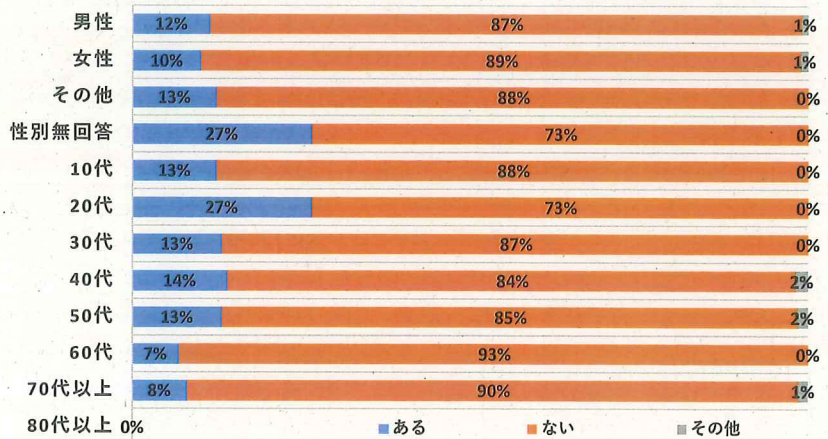
資料 沼津市「市民意識調査」(H30)

図表 19 過去5年間でLGBTに関するハラスメントを見聞きしたこと



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

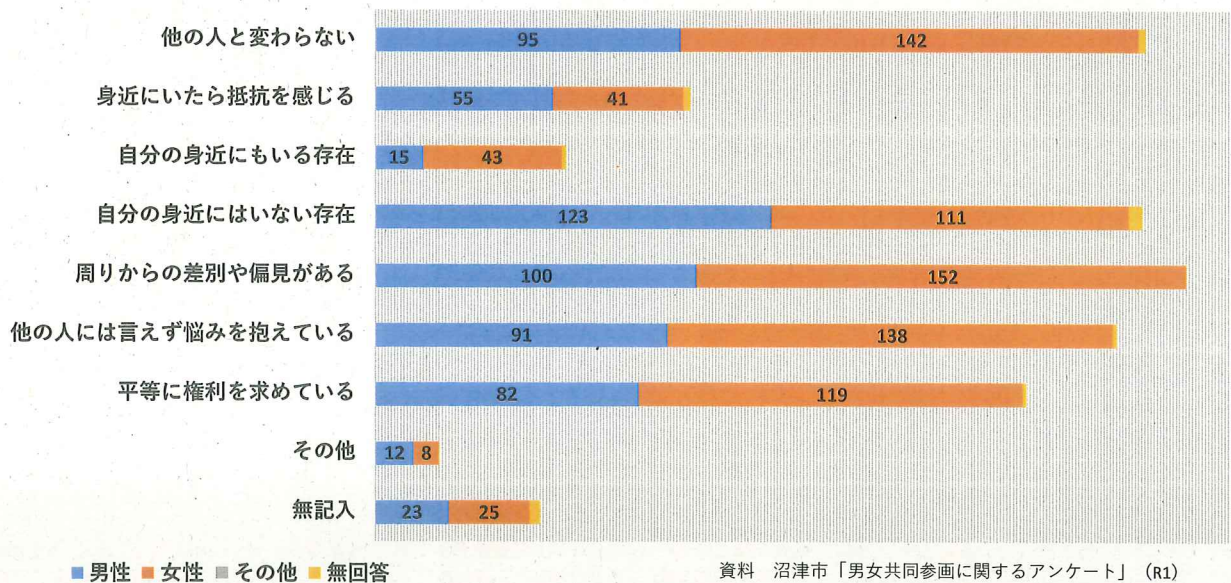
図表 20 過去5年間でLGBTに関するハラスメントを見聞きしたこと(性別・年代別)



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)

図表 21 LGBTに対するイメージ

単位：件 (複数回答)



資料 沼津市「男女共同参画に関するアンケート」(R1)